ポッカサッポロ フード& ビバレッジ

植物性素材に特化して事業推進 主力のレモンは健康軸で訴求強化



▲ポッカサッポロフード&ビバレッジの征矢真一社長

ポッカサッポロフード&ビバレッジは植物性素 材により特化した事業構造を目指していく。

「サステナブルな社会の中で今後環境や健康への意識シフトは飛躍的に進み、植物性素材が一つのセグメントとして認知され求められる時代が来る」(征矢真一社長)との考えの下、少なくとも10年先を見据えて、おいしさ・簡便・健康の面から植物性素材をキーワードに同社の強みを磨きあげていく。

征矢社長は、これらの取り組みを"未来の食のあたりまえ"の創造と呼び「既存のもので新しいものを創ることにも取り組むが、やはりゼロから新しいものを創るのは必須。ただし、いきなり飛地にいくのではなく、持っている資産や強みから新しいものを創り上げていきたい」と意欲をのぞかせる。

その核となる植物性素材は、プランツミルク事業で展開している豆乳ヨーグルトや、強みのレモン事業で領域を広げていく。

「最初は豆乳ヨーグルトの市場形成が大事だが、 将来は広く牛乳と同じようなことをやりたい。今 まで牛乳で満たしていたものを植物性タンパク質 でも満たしていくことを進めていく」考えだ。

主力のレモン事業には引き続き最注力の構えだが、「まだまだ幅が狭く、レモンの原料をすべて生かしきって事業をフル展開できていない。加えて、レモンで培った技術を他の柑橘類に生かすこともできておらず、原料から手掛けて安全・安心を担保する取り組みもまだまだやり切れていない」などの課題を挙げる。

21年は「レモンの新創業」をテーマに掲げる。

「"ポッカサッポロはレモンの会社"と言われるようにしていきたい。この目標に向かって、レモンを健康軸で訴求することで健康イメージのコーポレートブランドを構築していく。そうすれば、飲料やスープなどレモン以外の事業でも健康イメージを打ち出すことができる」と意欲をのぞかせる。

レモン事業では、原料産地と原料加工にもフォーカスして生産振興と価値創造を強化していく。

「レモン事業を新創業させる。今まで加工食品 ということでやってきたが、農作物であるレモン 自体を勉強して、生産に携わる農家の方々と一緒 にレモン事業を伸ばしていく」考えだ。

同社は13年から国内最大の生産地である広島県と連携し、国産レモンの生産振興を主目的として地域に寄り添った事業活動の体制を構築している。

広島県豊田郡大崎上島町とは16年4月に包括協定を結び、その後、18年から23年までの5年間、町民約500人が参加して日常的にレモンを摂取し健康状態への効果を確認する産官学連携の「レモン長期観察介入研究」に取り組んでいる。

ポッカサッポロは同町の中心部地区で農地を賃借して19年4月にレモンの栽培を開始し、23年以降に10tの生産量を見込む。

同社でレモン事業を担当する土屋淳一氏は「自らが栽培に携わり、農業従事者が抱える課題を理解し、その解決策を地域とともに進めていく。生産環境を永く守っていくこともまた弊社の使命。市場創造だけでなく、社会的な貢献もレモンを通じてやっていきたい」と述べる。